

女子大学生における
家族ケアに対する意味づけと
コーピングスタイル・家族機能の関連
—ヤングケアラー・若者ケアラーの視点からの検討—

庄 司 羅 奈

庄司 羅奈

要旨

近年、ヤングケアラーの実態の把握が進んでおり、ヤングケアラー・若者ケアラーは稀ではない存在であることがわかっている。そこで、ヤングケアラー・若者ケアラーの意識や考えを明らかにし、支援を検討することを目的として、調査1では大学生の介護の意味づけとコーピング、家族機能の関連を明らかにし、調査2ではケア経験のある者への面接調査により、ヤングケアラーや若者ケアラーの心理・支援を検討した。調査1では、105名の大学生を対象に介護意味づけ、コーピング、家族機能の3つの心理尺度と家族ケアに関して尋ねた。その結果、全体の約1割がケアの経験があり、介護をネガティブに捉えている者は認知的再解釈のコーピングを用いにくい傾向があることが明らかとなり、ケア経験のある者は感情表出のコーピングを用いにくいことが明らかになった。さらに、家族ケアへの思いに関する自由記述から、【ケアの負担】【ケアを行う意識】【ケアにおける連携】【要ケア者に対する思い】【困惑】【専門職によるケアの重要性】の6つのカテゴリーに抽出され、【ケアの負担】と【ケアを行う意識】のカテゴリーでは、さらに2つずつサブカテゴリーが抽出された。この自由記述の結果を参考に、調査2ではケア経験のある学生を対象に面接調査を行った。得られた発言は調査1の6つのカテゴリーに【家族への支援】【考え方の変化】の2つを加えた8つのカテゴリーに分類された。その分類結果からヤングケアラーの背景、ケア状況、ケアを担うことの意味、支援について検討した結果、ヤングケアラーは“家族だから”あるいは“融通がきくから”というきっかけでケアを引き受けやすく、気が抜けなく、他者に頼ることのできない大変さやケアにおける連携の難しさなどのケアによる困り感が生じることがわかった。

このことから、ヤングケアラーが安心感を持てるような相談環境を作り、ケア役割を家族内から家族外へ、ケアの担い手を増やすといったケアの調整や情報を得る機会を作るなどの支援が重要であると考えられる。